

東日本大震災震災視察 《宮城県》

2012年8月7、8日に、全国土木施工管理技士会連合会主催で小林会長を団長とする総勢29名で、宮城県内の東日本震災被災地視察を実施しました。

まず初日に、仙台市荒浜地区の海岸堤防復旧事業、石巻地区沿岸部、震災火災で被災した門脇小学校跡等の石巻被災地区、石巻廃棄物処理現場、続いて2日目に南三陸沿岸から気仙沼地区の被災地を視察しました。

震災後、建物に明示された当時の津波の高さや、今も残る落下橋梁、寸断された鉄道や被災建物、陸上に打ち揚げられた船舶の跡を見て、改めて震災による被害の甚大さを感じさせられました。

現在進行中の堤防復旧事業では、被災の低減効果のあった新設堤防ブロックのかみ合わせ構造の採用や法尻部保護などの工夫が行われており、震災で得た教訓を生かした施工が取り入れられており、そう云った取組が今後の防災において重要である等を話し合いました。

今回の視察を通じて、復旧支援部隊（警察・消防・自衛隊）が乗込むまでの初期復旧活動において、自身被災者でありながら地域復旧活動に奔走した地元建設会社の苦勞話を聞くにつけ、災害発生時の建設業の役割と地域貢献の必要性を再認識しました。



写真-1 視察団 仙台市荒浜地区にて



写真-2 石巻門脇小学校 火災被災跡

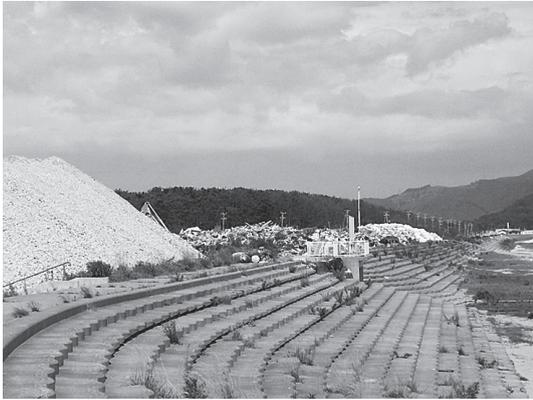


写真-3 石巻沿岸部 堤防

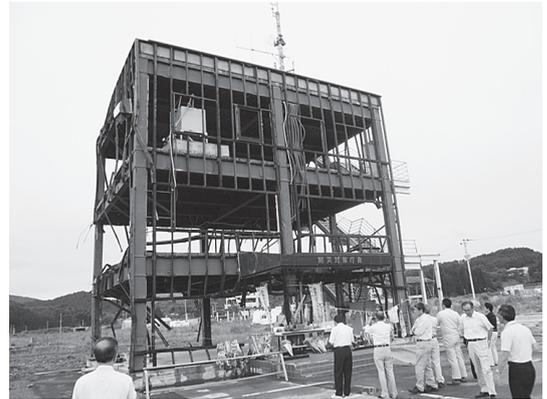


写真-6 南三陸 防災対策庁舎



写真-4 石巻廃棄物処理現場 1



写真-7 気仙沼 被災船舶



写真-5 石巻廃棄物処理現場 2